

「イージス・アショア」

米国が開発したミサイル迎撃システムで、イージス艦に搭載されている高性能レーダーと迎撃ミサイルをセットにし、陸上設置型とした兵器。射程は2千km、迎撃高度は1千km。ロッキード・マーチン社製。（右：米ミサイル防衛局HP）



疑問だらけ！

イージス・アショア なぜ秋田市新屋に？

2017年12月、安倍政権は、北朝鮮による弾道ミサイル発射に対処するためとして、地上配備型ミサイル迎撃システム「イージス・アショア」の2基導入を閣議決定しました。配備先については未だ公表されていませんが、報道では、秋田県秋田市の新屋演習場と山口県萩市のむつみ演習場が候補地とされています。

秋田市新屋地区は住宅密集地であり、幼稚園や小中学校、高校、高齢者福祉施設などが隣接しています。地域住民からは、高性能レーダーから発せられる電磁波による生活や健康への影響はないのか、ドクターヘリや航空機、船舶の運航が制約されるのではないかと、攻撃やテロの目標にされるのではないかなど、懸念の声が上がっています。

配備を肯定する識者でさえ配備する合理性がないと言っている秋田市新屋に、なぜ配備するのでしょうか？

住宅地や公共施設が密集している地域になぜ？



【演習場に隣接～1 km圏内】

秋田商業高校、千秋学園、秋田カントリークラブ、勝平小 等

【～2 km圏内】

勝平地区、川尻地区、勝平中、運転免許センター、秋田技術専門学校、県立プール、こまちスタジアム、県立武道館、県立スケート場 等

【～3 km圏内】

寺内地区、八橋地区、山王地区、川元地区、新屋地区、茨島地区、川尻小、寺内小、秋田県庁、合同庁舎、裁判所、気象台、秋田県警察本部、秋田市役所、秋田市保健所、市立総合病院、市立体育館、八橋陸上競技場、県立図書館、秋田県児童会館、秋田市文化会館、ハローワーク秋田 等

【3 km付近】

旭北小、山王中、旭南小、八橋小 等

※上記は演習場の中心地からの計測。配備場所により0.5～1 kmの差異がある。

イージス・アショア配備計画をとめよう！

請願署名にご協力を

●アメリカのミサイル防衛策の一環？

2017年12月の閣議決定で、政府は、イージス・アショア導入について、北朝鮮の核・弾道ミサイル開発の脅威が高っているとし、ミサイル防衛の抜本的な向上が必要であると強調しました。

「イージス・アショア」は、アメリカの本土防衛と密接に関連しています。「日米防衛協力の指針」では「自衛隊及び米軍は、各々の能力に基づき適切な場合に弾道ミサイルの迎撃において協力する。」とされており、12月の防衛省交渉でも「他国へむけた発射への迎撃は、存立危機自体などの要件を満たせば可能」との見解を示しています。集団的自衛権を容認した安保体制のもと、専守防衛の枠を大きく逸脱する危険性があります。

●迎撃の成功率は3分の1？

1月30日に行われた、イージス・アショアに搭載する予定の新型迎撃ミサイル「SM3ブロック2A」の迎撃実験が失敗したと報じられました。3回の実験で2回失敗したという結果に、ミサイル防衛の必要性を認める国会議員の間にも疑問視する見方が強まっています。

性能面でも確立されていない武器を、アメリカの言い値通り、2,000億円以上もの税金を投入して購入する必要があるのか、はなはだ疑問であると言わざるをえません。

●「戦争は、政治家の外交の失敗によって起きる」（井筒高雄さん講演から）

北朝鮮の脅威に対し、安倍首相は「必要なのは対話ではなく圧力」「対話のための対話は無意味」などの発言を繰り返し、武力による防衛力強化を進めています。しかし、「イージス・アショア」などの配備により、かえって軍事的緊張を高める恐れがあります。現に、イージス・アショア配備に関しては、中国やロシアも不快感を表しています。

日本を戦争に巻き込ませないための努力が外交です。日本をとりまく状況に対しては、対話に向けた外交努力によって平和的な解決をはかるべきだと考えます。



●心配される電磁波の影響

地域住民の大きな不安の一つが電磁波の影響です。高性能レーダーを発する際、サイドロープと呼ばれる電磁波が発生すると言われていています。小野寺防衛大臣は国会で、「電波法や電波防護指針等で安全性の基準が規定されており、それに基づき運用する」と答弁していますが、航空機ドクターヘリ、船舶等の運航規制など詳細は何一つ明らかにされていません。

井筒高雄さん（元自衛隊レンジャー隊員）は、具体的なデータはないとした上で「イージス艦では、システム稼働時は甲板に乗組員を出さない。京都などのXバンドレーダーも航空機等の飛行を制限している」など、影響について指摘しています。

電磁波の健康への影響については研究途上であり、はっきりしたデータは明らかになっていませんが、携帯電話など微弱な電磁波の影響を指摘する研究者もあり、健康への不安は払拭されません。

●運用は30年。装備拡大の心配は？

小野寺防衛大臣は、取材の中で将来的に巡航ミサイルの防衛にも活用したい考えを明らかにしています。イージス・アショアは攻撃ミサイルの搭載も可能であり、一旦配備されれば、さまざまな理由付けから新たな装備が追加される可能性は小さくありません。

イージス・アショア配備問題を考える実行委員会

●賛同者（団体）（2017.12.15 現在）

秋田県平和センター、社民党秋田県連合、秋田県平和運動推進労組会議、I女性会議秋田県本部、社青同秋田地方本部、社民党秋田市総支部、秋田地方平和運動推進労組会議、中央地区平和憲法を守る会、いらねえ！地上イージス・アショア各界連絡会、石田寛（秋田県議会議員）、石川ひとみ（同）、薄井司（同）、加藤麻里（同）、長澤孝政（秋田市議会議員）、工藤新一（同）、藤枝隆博（同）

●事務局 秋田県平和センター 〒010-0001 秋田県秋田市中通 4-3-31 ☎ 018-833-8354 FAX 018-835-7915

●資金カンパ 個人1口 1,000円 団体1口 3,000円

送金先 東北労働金庫秋田支店（普）6551049 「イージス・アショア 事務局局長 佐藤信哉」

サトウシンヤ
佐藤信哉